

Social : 社会性報告

当社創業者の理念である『我社の本領は最大の会社たらしめんとするにあらずして常に良品を製造する会社である事』すなわち、『当社は大きな規模でなくて良い、いつの時代でも良品を造り続ける』という考え方は、本業の生産活動だけでなく、あらゆる活動において一歩一歩地道に積み重ねる風土として根付いてきました。この社会性報告では、ステークホルダーの皆様との関わりについて、『地域社会とともに』や『国際交流』など様々な項目から当社の取り組みを報告します。

社員の『自発的成長』を 促す環境整備を推進

総務人事部・安全健康環境部 担当
専務執行役員

筏津 謙二



当社はお客様やサプライヤーの皆様、地域の方々、そして社員、家族などあらゆるステークホルダーの皆様に支えられて企業活動が成り立っています。そのことを認識し、今後も信頼していただくための行動を社員一人ひとりが日常の中で実践していくことが大切であり、社会的責任を果たせる社員を育成していくことが企業の責任と考えております。

そのために、個の成長が会社の成長に、さらには地域社会の発展につながるという考えのもと、一昨年から社員の自発的成長を促す環境整備を実施してきました。人事制度では評価制度や等級制度を、頑張った人が報われ、互いに切磋琢磨し高め合える制度へ移行。加えて、基幹職層には評価に多面評価を取り入れ、人

財育成と組織活性化を図っています。教育制度においては、一律的な教育から社員が自ら選択して受講する制度へ変更し、自発的な成長を支援しています。

また、当社は今年の5月に創立85周年を迎えます。これを機に、今の時代に合った福利厚生を目指し、長年当たり前とされてきた制度を変更。生活様式が多様化する社員のニーズに合うよう選択肢を拡大し、健康経営につながる新たな仕掛けを進めています。

このように制度の考え方は変えずにやり方を変え、社員の多様性への対応や自発的成長を促しています。そして、企業としての社会的責任を果たし、より多くの皆様から信頼いただけるよう一層のレベルアップを図っていきます。

地域社会とともに

『よき企業人である前によき地域住民でありたい』という考えから、継続的な地域貢献活動に取り組んでいます。

誠和寮交流イベント

誠和寮の寮生が中心となって、様々なイベントを企画・運営しています。地域観桜会はコロナ禍のため3年ぶりに、盆踊り大会は誠和寮感謝祭としてリニューアルして、4年ぶりに開催。地域の一員であるという自覚を寮生一人ひとりに促すとともに、地域の皆様に楽しんで参加していただき、感謝の声をいただいています。



地域観桜会には172人が来場した



誠和寮感謝祭ではゲームの出店が大人気

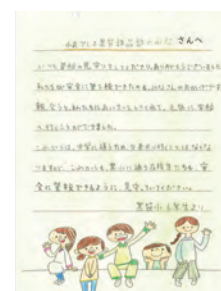
地域産業を担う人財を育成

地域産業を担う人財育成の一環として、豊田工科高等学校生の企業内実習を受け入れています。実習では、3DCADを活用した設計業務の体験を実施しています。



地元の小学校との交流

黒笹技術センターでは、地元・黒笹小学校の児童が登校する際に、横断歩道などで見守り活動をしています。この活動は10年以上続いており、2022年には児童手作りの感謝状や手紙をいただきました。



国際産官学連携PBL-Cプロジェクト

南山大学と連携し、2019年から『国際産官学連携PBL-Cプロジェクト』に参加しています。これは、南山大学の学生が海外協定校の学生や一般企業と連携して課題に取り組むもので、2022年はカリキュラムの最終年でした。学生達が『10年後の車のカタチをデザインする』をテーマに、未来を想定して新しい商品企画のアイデアを発表し、新しい視点や考え方を知る機会となりました。



地域への備蓄品配布

地域貢献の一環として、周辺自治区へ備蓄品の配布を実施しました。合計4000個の備蓄品を金谷・下市場・下林・長興寺の4自治区に配布。配布された備蓄品は、各自治区の防災のイベントなどで地域住民へ提供されました。



こじま福祉会の活動を支援

1971年、現在のこじま福祉会の前身である『社会福祉法人小島会』を設立し、福祉活動を通じた様々な社会貢献活動を支援しています。

■ 園児が町の防犯活動の一役担う

こじまこども園は豊田市内で人気が高いこども園で、2016年には『子どもにとって最高の安心・安全』をコンセプトに木造平屋建ての園舎が完成しました。また、地域防犯活動として、園児による『ちびっこパトロール』を定期的実施。2022年には、交通安全活動や防犯活動が高く評価され、豊田警察署から感謝状をいただきました。



■ ボッチャ全国大会3位入賞

こじまキャンパス、豊田市さくらワークスの従業員を中心に、パラリンピックの正式種目である『ボッチャ』へ挑戦しています。2022年10月に、一般社団法人日本ボッチャ協会主催の全国大会『ボッチャオープンチャンピオンシップ2022』が開かれ、豊田市さくらワークスの吉永和樹さんが個人戦OP立位の部に出場。トーナメントの5戦を戦い抜き、見事全国3位入賞を果たしました。大会を通じて、他の出場者の方とも交流を深める機会となりました。



■ 地域への恩返し^(※)

こじまキャンパス、豊田市さくらワークスでは、従業員が地域の一員として活動の幅を広げ、身体に障がいがあっても積極的な姿勢で社会への参画と奉仕を実践しています。ボランティア活動では、防犯パトロールや立哨活動、地元・拳母神社の清掃などに取り組んでいます。また、地域で働けることに対する感謝の気



地元・拳母神社清掃

持ちを伝えることを目的に毎年開催してきた、『自立と感謝のつどい』を『第1回ふれあいフェスタ』としてリニューアルし、3年ぶりに開催。改善活動やスポーツ大会の結果報告、太鼓の演舞などを披露しました。



来賓の愛知県・大村秀章知事と豊田市・太田稔彦市長に改善活動を報告



太鼓の演舞を披露

VOICE



従業員代表あいさつに挑戦

2022年にさくらワークスからこじまキャンパスにステップアップし、組付作業を担っています。『第1回ふれあいフェスタ』では、従業員代表であいさつをする機会をもらい、責任感を持ってやり切ることができました。今後も仕事の幅を広げられるように、挑戦する気持ちを持って頑張ります。

こじまキャンパス 守屋 晴喜 さん

国際交流

当社の国際交流活動は1984年に留学生を受け入れたことからスタートしました。同年、(財)コジマ国際育英協会(現・一般財団法人コジマ財団)を設立し、アジアを中心に多くの留学生を受け入れています。

こじま留学生寮の提供

一般財団法人コジマ財団ではアジアを中心に各国から留学生を受け入れ、留学生寮を提供しています。2022年までに331人が入寮し、ボランティアの方と一緒に、日本の家庭料理を教えてもらう夕食会などを実施し、交流を深めています。

また、卒業生が集まる『こじま会』をオンラインで開催。近況報告に花を咲かせ、留学生同士のつながりを継続しています。



中国青海省・奨学金奨励金授与式

1990年より、将来の青海省を担う優秀な若者に対する人財育成の一環として、中国青海省・小島奨学金奨励金授与式を実施しています。2022年12月に32年目となる授与式が開かれ、日中友好の懸け橋となることを期待し30人の学生や青年教師に奨学金・奨励金を授与しました。



オンラインによる授与式

青海日本文化交流のつどい^(※)

2012年より毎年、中国青海省の小島基地にて青海日本文化交流のつどいを開催しています。当社で研修を終えた小島技能実習生や南山大学生が中心となって『お点前』や日本の伝統的な舞踊を披露するなど、交流を深めています。



青海省短期留学生の受け入れ^(※)

2014年より、青海省短期留学生を受け入れています。オール小島の製造現場や日本の名所を見学してモノづくりや日本文化への関心を高め、留学生との和を広げています。



ベトナム技能実習生

2017年より、ベトナムからの技能実習生の受け入れがスタートしました。現在では14人の実習生を受け入れており、実習を通じて成形技術や日本語の習得を図っています。



(※) …新型コロナウイルス感染症対策として、2022年は規模を縮小、または開催を見送り

お客様とともに

トヨタ自動車(株)を主要取引先として、『常に良品を造り続ける』会社であり続けるために、オール小島一丸でQCDを意識した良いモノづくりに取り組んでいます。

トヨタ自動車より表彰



トヨタ自動車(株)による2023 Toyota Suppliers Conventionが4年ぶりに開催され、当社の2022年度の取り組みに対し『原価改善優秀賞』、『補給改善賞』、『SSA推進優良賞』を受賞しました。なお、原価改善優秀賞は今年で43年連続受賞。今後もより安くして良い製品を提案し、得意先にとって『なくてはならない存在』を目指します。

プロジェクト表彰を受賞

2022年6月、トヨタ自動車(株)より『bZ4X』搭載の『新構造で部品数を削減したラジエーターガイド』で原価の部を受賞しました。また、同年12月には『レクサスRX』搭載の『コンソール一式で剛性確保する構造提案』で原価の部を受賞。数多くの製品が得意先から評価されました。



bZ4X搭載：
ラジエーターガイド

レクサスRX搭載：
コンソールボックス



SSA現地確認会

トヨタ自動車(株)を招き、SSA(※)現地確認会を実施しています。SSAは、ユーザー目線で自動車部品の品質・性能の基準を適正化する活動。2022年はオール小島だけでなく当社のサプライヤーでも開催され、27回478件の事例を検討しました。基準正当化について即断即決することで、迅速な生産ロス改善につなげています。



(※) SSA…Smart Standard Activity

トヨタ生産方式自主研究会

2022年8月～12月、トヨタ生産方式自主研究会が高岡工場で開催されました。2021年より3年計画で進めている高岡工場の構想活動の一部をトヨタ生産方式自主研究会として協力いただき、第5工場構内の作業安全では、リフトの動線の交差をなくすレイアウトと運用について改善を実施。また、集荷作業の効率化では、



改善のベースとなる作業標準と作業原単位の整備を実施し、当社の取り組みについてアドバイスをいただきました。

サプライヤーの皆様とともに

自動車部品づくりを通して社会に貢献するため、革新的かつ高品質な製品の提供を目指し、サプライヤーの皆様と協力し、より良いモノづくりに取り組んでいます。

仕入先展示会

未来のモビリティ社会に向け、新たな仲間づくりの構築を目指し、社内における仕入先展示会やWEB展示会を実施しています。2022年は20社の製品や取り組みを展示。環境対応に掛かる提案比重の増加や、デザイン



のトレンドに関するセミナーを開催していただくなど、市場の動向に反応できるような展示会への転換を進めています。

仕入先講習会（射出成形作業講習）

当社の社員が講師となり、三河地区のサプライヤーを対象に仕入先講習会を開いています。『射出成形作業』の技能や知識の向上を図るため、学科講習や、サプライ



ヤー各社の設備を利用した実技講習を実施しています。

防火点検活動

オール小島のサプライヤー各社の安全な職場づくりを目的に、発火源となるコンセントや配線、配電盤などを確認する防火点検活動を実施しています。2022年は、グループ会社が各自でサプライヤー各社の防火点検を



できるよう教育を開催。また、危機意識を高める活動として、WEB上で実際に発生した火災事例や防火対策に役に立つ情報をサプライヤー各社へ具体的に展開し、未然防止を図っています。



オール小島のサプライヤー各社で防火点検を実施

オール小島仕入先総会

得意先の期待に応えるため、サプライヤーを含むチーム小島で品質レベルの向上を目指し、一丸となり取り組んでいます。毎年、サプライヤーの皆様にも参加していただくオール小島仕入先総会では形態を見直し、WEB上で小島社長のメッセージや各部門からの展開事項を発信して活動の理解を図ってきました。また、オール小島仕入先表彰式を開催し、貢献されたサプライヤーの皆様を表彰しました。



貢献されたサプライヤー13社を表彰した

社員とともに

社内行事を通じてコミュニケーションの促進や、人財育成による一人ひとりのレベルアップを図ることで、社員が自分の仕事に誇りや自信を持って働くことができる『明るく楽しい職場』づくりを目指しています。

創立84周年記念式典^(※)

創業者の教えの一つとして『フシを大切にすること』を徹底してきました。これは、会社や人生の節目で自己を見つめ直し、次への成長に確実につなげていくためです。会社の創立記念も重要な節目であることから、毎年式典を実施。2022年は会社役員と労働組合三役、各部門長、永年勤続者の代表者が参加のもと、創立84周年記念式典を開催しました。



こじま杯

スポーツを通じてオール小島の交流や親睦を深めるとともに『明るく楽しい職場づくり』のイベントとして、こじま杯を開催しています。2022年は3年ぶりに開催し、社員とその家族715人が参加しました。チームで競うホームラン競争や、個人で参加するパターゴルフなど大人も子どもも楽しめるスポーツを用意。キッチンカーも出展し、大いに盛り上がりました。



ホームラン競争



キッチンカーによる食事の提供

こじまフェスティバル

毎年10月、オール小島やわらぎのつどい〜こじまフェスティバル〜を開催しています。2022年は『みんなで作る 楽しい和の大会』をコンセプトに、現地のやわらぎ森のスタジアムと特設WEBサイト上で開催。SDGsへの貢献を目指した発電体験バイクでの発電体験リレーを通して、オール小島のつながりを高めることができました。



小集団活動

2020年から製造部門を中心にQCサークル活動を再構築した『小集団活動』を実施しています。会社方針を達成するための改善テーマに合わせて、所属部署にこだわらずフレキシブルにメンバーが集まり、協力して改善を達成することで成果につなげていく活動です。改善を通じて新しい技能・知識の習得や、他部署・前後工程との連携により、一人ひとりが成長できる人財育成の場となっています。



教育制度

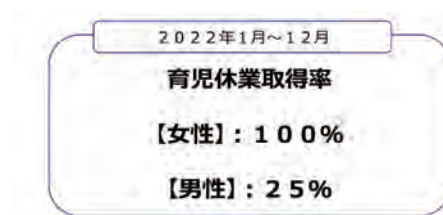
社員が自身の成長を感じることで、仕事に自信と誇りを持ち、明るく楽しく働くことが会社の成長につながる、そのような健全な関係を構築するために、教育体制に力を入れています。こじま教育センターでは75種類の講義を開催。75人の社員が講師となり知識や技能を教えることで、教える側と教わる側がともに成長する『人財育成』を実施しています。



育児休業制度

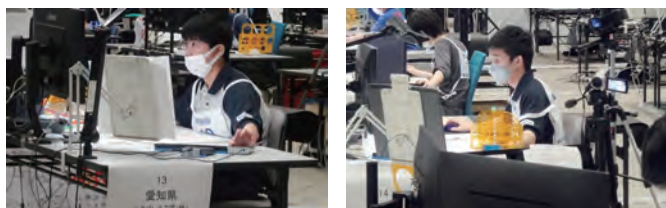
育児休業制度を原則1歳ではなく、無条件で2歳まで取得することができます。また、出生時育児休業（産後パパ育休）として男性社員も出生後8週間以内に最大4週間まで取得ができます。

他にも子育てをサポートする様々な制度があり、積極的な育児休業制度の活用で、家族との大切な時間を提供しています。



技能五輪全国大会

2022年11月に千葉県で開催された第60回技能五輪全国大会において、機械製図職種の愛知県代表として、総務人事部の川瀬雅さん（写真左）と志賀瞬太さん（写真右）が出場。全国大会の舞台上で全力を尽くしました。



ビジネスアイデアコンテスト『これいい和』

社会的ニーズや課題の解決を図る、または人の幸せを生むアイデアを社員から募っています。2回目となった2022年は76件の提案が集まり、社長が参加の審査会を実施するなど事業化を目指して取り組んでいます。



PICKUP

▶労働組合の活動（※）

労働組合では働きやすい職場環境を目指し、労使一体となって様々な活動に取り組んできました。

年2回実施しているいきいき職場指標アンケートの結果をもとに、より良い職場の風土づくりを進めています。活動の中で見えた上司と部下のコミュニケーション不足を解消するため、社員の資質向上を目的に『有効活用時間』での話し合いを実施しました。

また、手作りウインナー体験などを通じて、組合員同士や家族の絆を深めています。2021年からSDGsごみ拾い&ウォーキングイベントを豊田スタジアム周辺で開催。2022年はペットボトルキャップの回収を実施し、集まったキャップはワクチンとして寄付されました。



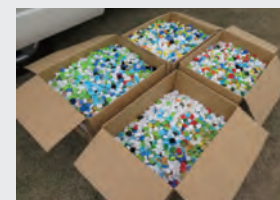
有効活用時間での話し合い



手作りウインナー体験



ごみ拾いの様子



集まったペットボトルキャップ

心身の健康維持・増進

『明るく楽しい職場』を実現し、活気ある企業活動を推進するためには、社員一人ひとりの心身の健康が基盤となります。当社は2006年4月に『こじま健康管理センター』を設立。医師・看護師・臨床心理師・公認心理士・運動トレーナーなどの専門スタッフを配置し、家族を含めた健康施策を、会社と健康保険組合が一体となって展開しています。

健康への考え方

『明るく楽しい職場』の実現

当社は、長期テーマ『人をつくり 人をまもる』を掲げています。企業活動の原点は『人』であり、社員一人ひとりの心身の健康は、当社の経営を支える最も重要な財産です。自動車業界が大きな変革期にある中で、常に挑戦し続けられる『明るく楽しい職場』を目指しています。その基本となる心身の健康を支えるため、小島健康保険組合と連携し、従来の疾病予防対策や法令順守はもとより、健康寿命を延ばす先制医療の考え方を取り入れた活動に取り組むことをここに宣言します。また、この健康への考え方や想いを地域社会に広げ、持続可能な社会の実現に向けた活動を推進していきます。

取締役社長 **小島 栄二**

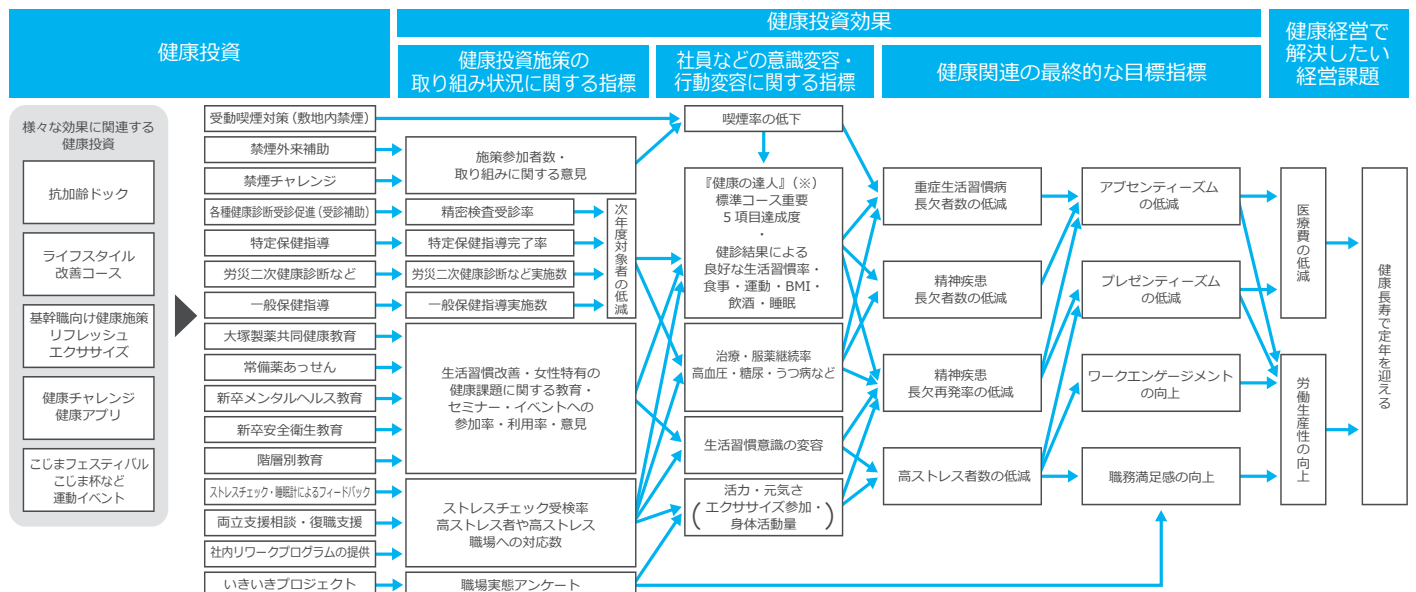
『ホワイト500』に認定



2022年の健康経営度調査により、経済産業省および日本健康会議から、大規模法人部門における健康優良法人として認定されました。認定内容は同部門2676法人のうち、上位500社の法人の証である『ホワイト500』。2022年に続き3回目の認定です。長年続けてきた社員への健康サポート体制のほか、喫煙率や運動習慣者率などの数値改善が評価されました。

健康経営戦略マップ

小島プレスでは2019年からの5年到達目標値を定め、具体的活動を戦略マップにまとめて活動しています。医療費の低減、労働生産性の向上を目指して活動を推進しています。



(※) 健康の達人：当社独自の健康指標で、体内リズム、睡眠、食事、便通、運動、体重、禁煙、節酒、歯科、体幹の10領域での健康を目指すもの。明るく元気に過ごすため、睡眠、食事、便通、運動、禁煙の5領域を重視している

健康宣言

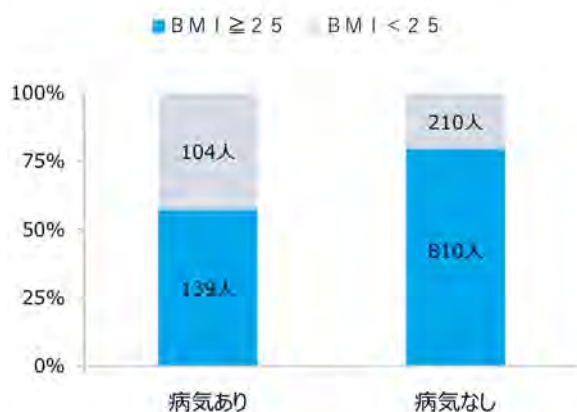
『人をつくり 人をまもる』の精神で健康を推進します

主要な健康指標の変化

当社は2018年度の健康診断実績をもとに各種生活習慣の5年改善目標を設定し、様々な施策を実施しています。今後も2023年度の目標達成に向けて改善に取り組みます。

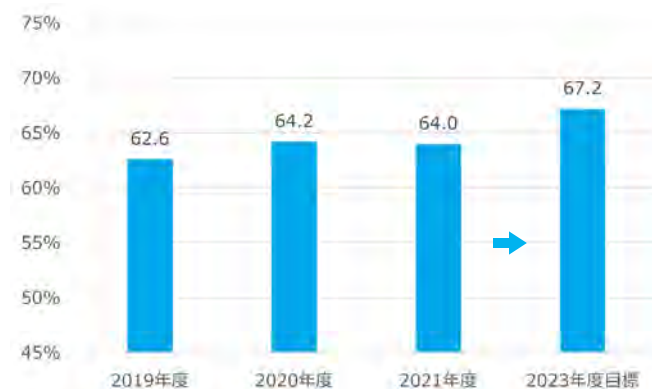
【BMI（体格指数）と病気の関係】

2018年結果



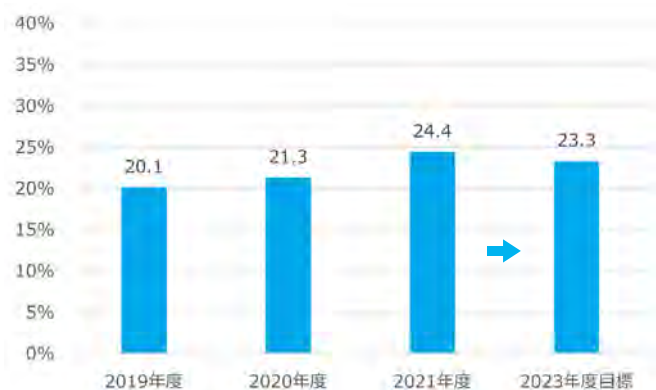
当社の傾向として、BMIが25以上の社員ほど脳・心血管疾患を含む生活習慣病やメンタル疾患に掛かりやすいことが分かっています。

【BMI適正率】



2022年に健康診断で肥満と認定された社員に、病院への通院や特定保健指導の受診を勧める活動を徹底。その結果、BMIの数値が適正な人の割合が増加傾向です。

【運動習慣者率】



スポーツレクリエーションイベントのこじま杯やウォーキング大会など運動イベントを積極的に開催し、社員の運動習慣を支援しました。少しずつ運動習慣者が増えてきています。

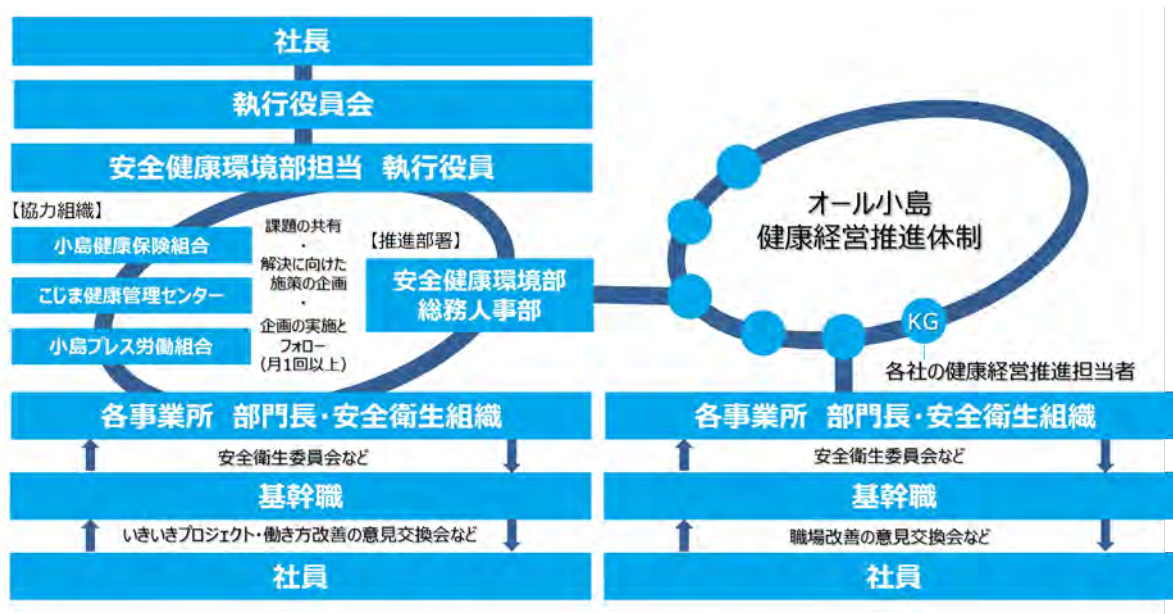
【喫煙率】



2022年1月から敷地内禁煙を実施しています。オール小島各社でも敷地内禁煙が進み、禁煙に取り組む社員が増加。喫煙率の減少につながりました。

推進体制

『人をつくり 人をまもる』の精神で健康を推進するという健康宣言のもと、社内体制を整えるとともに2022年よりグループ会社から『健康経営推進担当者』を選任しました。オール小島一体で健康推進体制を構築しています。

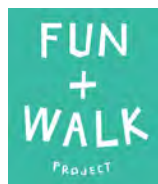


社員の健康維持・増進につながるイベントを企画

当社の社員が、各種生活習慣の改善に取り組みやすいように、スマホのアプリやオンラインセミナーを積極的に活用しています。

■ 運動習慣を身に付けるイベント

運動増進を目的に、2022年はQOLism内でのイベントの一つとして、『Kojiwalk (コジウォーク)』が実施されました。これはチーム対抗で、各個人に割り振られた歩数目標の達成を目指すもので、293人、47チームが参加しました。この活動はスポーツ庁の官民連携プロジェクトである『FUN+WALK PROJECT』にも認定されました。



■ 禁煙サポート

受動喫煙対策と社員の健康増進のため、2023年に喫煙率24.7%以下という目標値を掲げて禁煙サポートに取り組んでいます。ハード対策として敷地内禁煙を実施することに加え、『健康の達人コース』と題し、運動とリフレッシュの要素を主軸とした禁煙と運動習慣を改善するプログラムを提供。オンライン禁煙セミナーも実施し、禁煙希望者へのサポート体制を強化します。

VOICE



ゼロエミッション開発設計部
課長 安藤 幸司

生活スタイルに良い変化

禁煙を始めたきっかけは、社内で敷地内禁煙が始まったことです。そこで小島健保の健康の達人コースに参加し、計画的に禁煙を成功することができました。禁煙をきっかけに、今までの生活スタイルが健康的なものへと変わったことを実感しました。

オール小島との連携強化

2022年より『推進体制』をオール小島に拡大し、当社が取り組んできた健康経営活動を全社に展開しています。グループ会社との連携を深め、さらなる健康推進を図っていきます。

■ こじま健康管理センターとの連携

こじま健康管理センターでは、健康習慣改善アプリ『QOLism』をオール小島に提供し、健康推進をサポートしています。また、アプリを活用した『健康チャレンジ』を企画し、多くの社員が利用しています【図1】。

【図1】



■ オール小島の健康活動を促進

東北KAT

2023年から敷地内禁煙をスタートさせました。2022年末の時点で社員全体の約3割が喫煙者だったため、段階的に禁煙につなげられる仕掛けをしています。例えば、電子たばこメーカーを招き、紙たばこに比べて電子たばこの方が体への害が少ないことを教えてもらうなど、徐々に意識改善を図っています。

また、小島プレスから展開された禁煙セミナーに参加。『ランチョンセミナー』としてオリジナル弁当を手配し、参加者を募りました。実際に禁煙者が増え、健康意識が高まっています。今後はQOLismを使った禁煙の推進活動などを実施します。



ランチョンセミナーに参加した社員

また、健康チャレンジの企画として『健康川柳』など様々なイベントを実施。2022年は全189句の中から金賞、銀賞、佳作が決定しました【図2】。社員が楽しみながら健康活動を実践できる仕掛けをしています。

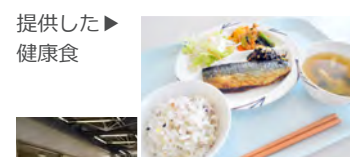
【図2】



やわらぎ協同組合

食事を通じた社員の健康管理を目的に、2022年から健康食の開発を始めました。『まごわやさしい（マメ・ゴマ・ワカメ・ヤサイ・サカナ・シイタケ・イモの頭文字）』をコンセプトに、1食に必要なとされている栄養素やカロリーが昼食で摂取できるよう、雑穀米と減塩味噌汁を加えてバランスの良い食事を考案。2023年1月に小島プレス本社で実施した試食会では、社員から好評でした。今後は段階的に雑穀米と味噌汁をメニューに取り入れていきます。

食事を充実させ、社員の健康維持をサポートできるように今後も継続していきます。



▲小島プレス本社で試食会を実施

ガバナンス

当社は長期的な持続的成長を実現するため、また、グループ競争力強化に向けて、コーポレートガバナンスの充実・強化を重要課題として取り組んでいます。

コンプライアンス

当社は地域社会に必要とされ続けるための源泉は『人』であると考え、社員一人ひとりが高い倫理観を持って公正・誠実に行動することを考えており、コンプライアンスの徹底に努めています。

■ ころがけ

社員の必携書として、『ころがけ』をオール小島の全社員に配付しています。『創業者語録』や『人の行動8ヶ条』、『服務心得』など、社員一人ひとりのモラル・行動規範が記載されています。



■ 内部通報制度

コンプライアンスに関する問題の早期吸い上げと解決のため、社内・社外にコンプライアンス相談窓口を設けています。社員が適正に保護された状態で通報・相談できる仕組みを整えています。

■ 新入社員・新任基幹職基礎知識教育

新入社員と新たに基幹職になった社員を対象に実施しています。基幹職としての基本知識として、労働時間の管理、ハラスメント、機密管理、メンタルヘルスの4項目について学んでいます。

情報セキュリティ

持続可能な会社経営を実現するため、情報セキュリティへの取り組みを経営方針の一つとして、オール小島全体で推進しています。

■ 基本方針

情報セキュリティの脅威は、経営リスクであると認識し、取引先ならびに社会の信頼に応えるべく、『情報セキュリティ基本方針』を策定しています。これを継続的な改善活動を実現するための指針として、情報セキュリティの維持、強化につなげます。

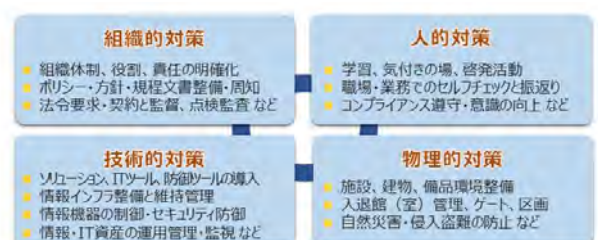
情報セキュリティ基本方針

小島プレス工業株式会社（以下、当社）は、取引先様からお預かりした、または、当社の情報資産に対する事故・災害・犯罪などの脅威を経営リスクの一つとして認識し、取引先様ならびに社会の信頼に応えるべく、以下の方針に基づき全社で情報セキュリティに取り組みます。

- 1.経営者の責任
当社は、経営者主導で組織的かつ継続的に情報セキュリティの改善・向上に努めます。
- 2.社内体制の整備
当社は、情報セキュリティの維持及び改善のために組織（情報セキュリティ管理チーム）を設置し、情報セキュリティ対策を社内での正式な規則として定めます。
- 3.従業員の取組み
当社の従業員は、情報セキュリティのために必要とされる知識、技術を教育、訓練により習得し、情報セキュリティテラシーの維持、向上に努めます。
- 4.法令及び契約上の要求事項の遵守
当社は、情報セキュリティに関わる法令、規制、規範、契約上の義務を遵守するとともに、取引先様の期待に応えます。
- 5.安全な製品の提供
当社は、企画、開発、設計、製造において、情報セキュリティを考慮した製品を、取引先や社会に提供します。
- 6.違反及び事故への対応
当社は、情報セキュリティに関わる法令違反、契約違反及び事故が発生した場合には適切に対処し、再発防止に努めます。

■ 情報セキュリティ対策の取り組み

従来から実施している機密管理テストや標的型攻撃メールの訓練に加え、情報セキュリティ管理チームを設置し、経営層が中心となって情報セキュリティの維持、改善に取り組んでいます。対策は、『組織・人・技術・物理』の4領域の継続的な改善活動を実施しています。



情報セキュリティ対策の4つの領域

リスクマネジメント

大規模地震など自然災害の発生を想定し、人命の安全や事業活動への影響の低減を目的とした活動に注力しています。また、『明るく楽しい職場づくり』をキーワードに、全社員の心身の健康を守ることも企業の使命ととらえています。

安全衛生の教育体系として、新入社員から経営層まで、それぞれの職層に応じた様々な教育を実施。新人は、意識・知識・技能を中心とした教育、上位職になるにつれて、管理を中心とした教育に重点を置いています。このような教育を通じて、『ルールを守れる』、『自分の職場を守れる』、『互いに注意ができる』人づくりに取り組んでいます。

■ 災害に備える

災害時に取るべき行動を全社員が体得することを目的に避難訓練を実施しています。2022年は地震発生時の初期行動を確認するため、緊急地震速報後の0次・1次避難を実施。また、社員寮である誠和寮でも避難訓練が実施され、フロアごとに避難経路を確認しました。

また、帰宅困難な状況などを想定して、社員が生活に困らないよう水や調理不要の食事などの防災品を備蓄しており、2022年は災害備蓄品の配布訓練を実施しました。



避難訓練（本社）



災害備蓄品を社員に配布



避難訓練（誠和寮）



普通救命講習

■ BCPWG

各事業所の代表者が集まり、BCPWG（ワーキンググループ）を月に1回開いています。得意先が安心して取引できる、社員が安心して働ける会社を目指し、災害時の初動対応をまとめた12項目の手順を、実態に合わせて代表者全員で見直しました。また、社員の意識向上のため、教育や訓練の企画、実施をしています。



■ 工場安全

トップによる生産現場の『安全点検』を年に2回実施し、各工場のリスクアセスメントの内容や災害対策について確認しています。また、オール小島安全衛生委員会が、年3回ずつグループ各社を回って安全相談会を実施し、困りごとの対策やオール小島での情報共有を進めています。



安全点検



安全相談会（大和化成）

■ 交通安全活動^(※)

年に3回、各事業所の周辺でオール小島統一立哨を実施しています。この活動は過去の重大事故を忘れず同じ不幸を繰り返さないことを目的に、2011年より始めました。地域に交通安全を呼び掛けるとともに、自身の運転を見直す機会としています。



(※) …新型コロナウイルス感染症対策として、2022年は規模を縮小、または開催を見送り